

公立大学法人 京都市立芸術大学（学長：鷲田清一）は、2015 年 10 月 10 日（土）から 11 月 15 日（日）まで、京都市立芸術大学ギャラリー@KCUA にて、タデウシュ・カントル生誕 100 周年記念展「死の劇場ーカントルへのオマージュ」を開催します。

カントルは第一次世界大戦の最中に生まれ、第二次世界大戦中から芸術家としての活動を開始、早くから国際的に名声を確立しました。特にカントルの作品に見られる高い象徴性、死の表象、日常性への下降とその逆説的な意味の転換、時にユーモラスに、時に諧謔的に社会を挑発し、公共空間へと挑む手法がポーランドのみならず世界的な美術や演劇活動に与えた影響は測りしれません。日本との関わりも深く、1982 年と 1990 年の二度にわたって来日公演の際、日本の観衆、特に演劇界に多大な衝撃を与えました。また没後 1994 年から翌年にかけてセゾン美術館と伊丹市立美術館で彼の美術作品に焦点を当てた大規模な回顧展「タデウシュ・カントル 我が芸術＝旅＝我が人生」も開催されています。

本展では、20 世紀を代表するポーランドの芸術家、タデウシュ・カントルの生誕 100 周年を迎えるにあたり、彼の偉業を演劇・美術の双方からのアプローチで回顧します。カントルの写真、日本に残るドローイング作品の展示や上演記録映像の上映会、関連シンポジウムなどによってカントルの全体像を示し、またポーランドと日本より 7 名 1 組を迎えて作品展示やパフォーマンス等の試みを通じ、カントルの受容とこれからの未来へ向けた現代的継承の豊かな可能性を示します。

参加作家

パヴェウ・アルトハメル、石橋義正、オル太、アルトゥル・ジミェフスキ、丹羽良徳、ミロスワフ・パウカ、松井智恵、ヨアンナ・ライコフスカ

タデウシュ・カントル (Tadeusz KANTOR)

1915 年、南ポーランド、ヴィエロポーレ・スクシンスキ生まれ、1990 年ポーランド、クラクフにて没。前衛芸術家、画家、素描家、芸術理論家、舞台芸術家、監督、ハプニング作者、20 世紀演劇の優れた改革者、ポーランド美術界で最も重要な作家の一人。1934 年から 1939 年にかけてクラクフ美術アカデミーで学ぶ。ドイツによる占領期に実験的な地下劇場を設立、クラクフの前衛運動の中心となった。1955 年に、戦前の芸術家による劇団クリコを継承して、仲間と共にクリコ 2 劇団を結成。アンフォルメル演劇 (1961)、ゼロ演劇 (1963)、ハプニング演劇 (1967)、不可能の演劇 (1973) と、次々と舞台活動を展開する。

カントルはポーランドを拠点としつつもしばしば外国に出かけ、同時代の世界の芸術の傾向、つまり、アンフォルメル、ダダ、概念芸術などの影響を受けつつ作品を制作した。1960 年代の始めから梱包（アンバラージュ）に専念し、1965 年以降、フォクサル画廊（ワルシャワ）と関わりつつハプニングを実施（例えば「パノラマ的海のハプニング」1967、「レンブラントの解剖学講義」1968、など）。1975 年には死の演劇宣言を発表すると共に、伝説的演劇『死の教室』を実現。続いて『ヴィエロポーレ。ヴィエロポーレ』（1980）、『くたばれ！芸術家』（1985）、『私は二度とここには戻らない』（1988）を上演。この時期、並行して絵画制作も続ける。1990 年に最後の演劇『今日は私の誕生日』を準備したが、クリコ 2 によって演じられたのはカントルの没後であった。

紹介文／作家略歴：加須屋明子（京都市立芸術大学教授）

■ 参加作家

パヴェウ・アルトハメル (Paweł ALTHAMER)

1967 年ワルシャワ（ポーランド）生まれ。ワルシャワ在住、制作。1993 年ワルシャワ美術アカデミー彫刻科卒業。自身や家族、友人の身体に基づく作品を制作、様々なプロジェクトでも知られ、特に 1994 年より、ノヴォリピエ（ワルシャワの、身体的に障がいのある人々のグループ）と継続中のワークショップは著名。日常生活の新たな解釈を発見させつつ、芸術の変革の可能性を追求する意味でカントルの遺志を継ぐものである。主な個展に、ニューミュージアム（ニューヨーク、2014）、グッゲンハイム美術館（ベルリン、2011）、セセッション館（ウィーン、2009）、ポンピドゥー・センター国立近代美術館（パリ、2006）、ボネファンテン美術館（オランダ、2004）ほか多数。主なグループ展に、第 7 回ベルリン・ビエンナーレ「恐れを忘れよ」（2012）、第 8 回光州ビエンナーレ（2010）、ポンピドゥー・センター国立近代美術館「過去の約束」（パリ、2010）、第 50 回ヴェネチア・ビエンナーレ、第 10 回ドクメンタ（1997）ほか多数。



《共同作業（ブラジル）》2009 courtesy the artist; Foksal Gallery Foundation, Warsaw; neugerriemschneider, Berlin and Open Art Projects, Warsaw

石橋義正 (Yoshimasa ISHIBASHI)

1968 年京都生まれ。京都市立芸術大学大学院修了。映画監督、演出家、映像作家として、映像作品やパフォーマンスなど幅広い分野で活動。マネキン家族のドラマ『オー！マイキー』がベルリン国際映画祭に招待されるなど国内外で高い評価を得る。とりわけ人間の身体とマネキンとが石橋の作品において接近する様や、テンポの早くユーモラスな表現とは、カントル的な表現の現代的継承の優れた一例である。劇映画『狂わせたいの』が日本映画プロフェッショナル大賞新人監督賞受賞（1997）、TV シリーズ『バミリオン・プレジャー・ナイト』製作・監督（2000）。『キューピキュピ』を主宰し、テート・モダン（ロンドン）、パレ・ド・トーキョー（パリ）、ニューヨーク近代美術館など国内外の美術館で展示やパフォーマンスを行う。2010 年には丸亀市猪熊弦一郎現代美術館で大規模な個展「SickeTel—キューピキュピと石橋義正—」を開催。近年には伝統芸能とメディアテクノロジーを融合した舞台作品『伝統芸能バリアブル』（2011）がある。京都市立芸術大学美術科准教授。



《BLACK RINA》2010

オル太 (OLTA)

1983 年から 1988 年生まれの 7 名からなるアーティストコレクティブ。メンバーは井上徹、梅田豪介、川村和秀、斉藤隆文、長谷川義朗、メグ忍者、Jang-Chi。多摩美術大学絵画学科油画専攻出身。多様なメディアを駆使しつつ人間の創造活動の根源に迫り、呪術的な力を現代に蘇らせる。特に彼らのオブジェを取り入れたパフォーマンスはカントルの死の演劇の現代版とも言えるだろう。主な個展に NADiff gallery（東京、2015）、岡本太郎記念館（東京、2011）など多数。主なグループ展に「上野のクロヒョウ」（東京都美術館、2015）、「内臓感覚—遠くて近い生ノ声」（金沢 21 世紀美術館、2013）、「Distant Observation Fukushima in Berlin」（クンストラウム・クロイツベルク / ベタニエン、ベルリン、2014）、「第 14 回岡本太郎現代芸術賞展」（川崎市岡本太郎美術館、2011）ほか多数。第 14 回岡本太郎現代芸術賞受賞。



《GHOST OF MODERN》2013-2014 Photo: Andreas Greiner

アルトゥル・ジミェフスキ (Artur ŻMIJEWSKI)

1966 年ワルシャワ（ポーランド）生まれ。ワルシャワ在住、制作。1995 年ワルシャワ美術アカデミー彫刻科卒業。社会の様々な歪みや周辺の領域に注目し、常に論争を引き起こす活動で著名である。鋭い観察者、挑発者として時に作品に登場するジミェフスキは、舞台監督でありかつ観客と俳優の間にあって、舞台上で特異で不可欠な存在感を放ったカントルの姿と重なり合う。国内外で多数の個展、グループ展を実施。ヘリット・リートフェルトアカデミー奨学生（1995）、「グアレーネ・アルテ 2000」展でサンドレット・レバウデンゴ芸術財団賞受賞（2000）。第 51 回ヴェネチア・ビエンナーレ ポーランド館代表（2005）、第 12 回ドクメンタ（2007）、DAAD アーティスト・イン・レジデンス（ベルリン、2007-2008）、オルドウェイ賞受賞（2010）。作品制作発表のほか、美術批評、展覧会企画も実施。第 7 回ベルリン・ビエンナーレ芸術監督（2012）、「クリティカ・ポリティチュナ」メンバー。



《盲目で》2010
courtesy the artist, Foksal Gallery Foundation, Warsaw and Galerie Peter Kilchmann, Zürich

丹羽良徳 (Yoshinori NIWA)

1982 年愛知県生まれ、2005 年多摩美術大学映像演劇学科卒業。不可能性と交換を主軸とした行為や企てを路上などの公共空間で試みることで、社会や歴史へ介入する作品を制作。自身の状況を転置することで眼に見える現実を解体し、「公共性」という幻想のシステムを顕にしてみせる。挑発者としてのカントルの一側面が丹羽において強調され、また公共空間や公共性を現代社会において告発してみせる点でもカントルを引き継ぐものである。近年は共産主義の歴史への興味からルーマニア、モスクワなどにおけるプロジェクトに展開。本シリーズ 4 作品は森美術館にコレクションされている。主なグループ展に「ダブル・ヴィジョン：日本現代美術」（モスクワ市近代美術館、ハイファ美術館、2012）、「あいちトリエンナーレ 2013」、「六本木クロッシング 2013」（森美術館）ほか多数。英アートマガジン ArtReview が選ぶ「Future Greats 2014」にノミネートされた。



《デモ行進を逆走する》2011

ミロスワフ・パウカ (Miroslaw BAŁKA)

1958 年ワルシャワ生まれ。ワルシャワとオトヴォツク在住、制作。1985 年ワルシャワ美術アカデミー卒業。2011 年より同アカデミーメディア科教授。ベルリン美術アカデミーメンバー。身近でシンプルな素材を用いながら、生と死の境界を見据え、鮮やかに意味を転置させる作風はまさにカントルの死の表象を思わせる。主な個展に、テート・モダン（ロンドン、2009）、国立国際美術館（大阪、2000）など。また主な参加展覧会に、ドクメンタ（1992）、ヴェネチア・ビエンナーレ（1990、1993、2003、2005、2013）、サンパウロ・ビエンナーレ（1998）、リヴァプール・ビエンナーレ（1999）、シドニー・ビエンナーレ（1992、2006）、サンタフェ・ビエンナーレ（2006）など。テート・モダン（ロンドン）、ファン・アッペ美術館（オランダ、アイントホーフェン）、ロサンゼルス現代美術館、サンフランシスコ現代美術館、ニューヨーク近代美術館、国立国際美術館（大阪）、イスラエル美術館（エルサレム）、など世界各地の美術館に作品がコレクションされている。



《橋山》2002 courtesy of the artist

松井智恵 (Chie MATSUI)

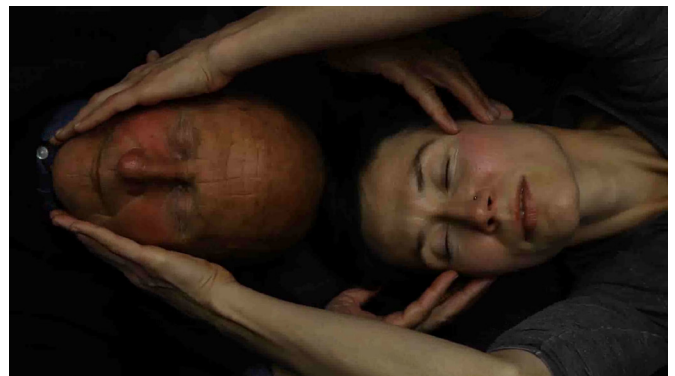
1960 年大阪生まれ。1984 年京都市立芸術大学大学院修了。80 年代よりインスタレーション、映像、写真、素描など様々な手法を用いながら、現代的かつ普遍的なテーマと関わる作品を発表してきた。2004 年より「ハイジ」シリーズ制作開始。彼岸と此岸とを自在に行き来しつつ、人間の現存在へと迫る寓意性の高い作品において、個人的な啓示と普遍性とが共存する点でカントルの作品との共通点が指摘できよう。国内外で高く評価され、多くの個展を開催する。主な個展に、神戸アートビレッジセンター（2000）、「平成 26 年春の有隣荘特別公開 松井智恵 プルシャ」（大原家旧別邸有隣荘、岡山、2014）ほか多数。主なグループ展に、ヴェネチア・ビエンナーレ・アベルト（1990）、「プロジェクト 57 イー・ブル、松井智恵」（ニューヨーク近代美術館、1997）、「いま、話そう。日韓現代美術展」（韓国国立現代美術館、ソウル／国立国際美術館、大阪、2002）、「未来予想図ー私の人生☆劇場ー」（兵庫県立美術館、2002）、「ゆっくり生きる」（芦屋市立美術館、兵庫、2008）、「トレス・エレメンツ - 日豪の写真メディアにおける精神と記憶」（東京オペラシティアートギャラリー、2008/ パフォーマンス・スペース、シドニー、2009）、「横浜トリエンナーレ」（2005、2014）、「龍野アートプロジェクト 2013 「刻の記憶」」（兵庫）ほか多数。



《ヒマラヤ 2015》2003-2015 協力：MEM

ヨアンナ・ライコフスカ (Joanna RAJKOWSKA)

1968 年ピドゴシチ（ポーランド）生まれ。ロンドン在住、制作。1993 年クラクフ美術アカデミーとヤギェウォ大学美術史学科卒業。公共空間へ介入する批判的作品で議論を呼ぶ。その作風は、集団的な記憶を織り込む公共の記念碑として、カントルが個人的記憶に徹底してこだわりつつ、集団的な意味の層を挑発し、活性化してみせたことと重なり合う。ライコフスカの作品は、イギリス、ドイツ、ポーランド、フランス、スイス、ブラジル、スウェーデン、アメリカ、パレスチナ、トルコなど世界各国で展示されてきた。またパブリック・プロジェクトとしては、《酸素供給機》（ウアズドフスキ城現代美術センター受託、ポーランド、2007）、《空路》（トラフォ・ギャラリー、ハンガリー、2008）、《ベルリンで生まれて》（第 7 回ベルリン・ビエンナーレ、2012）、《奇跡を強いて》（フリーゼ、2012）、《カーペット》（現代美術インスティテュート、スウェーデン、2014）ほか多数。



《父は決してこんな風に私を触らなかった》2014
courtesy of the artist, ZakiBranicka, Berlin and l'étrangère, London.

紹介文／作家プロフィール：加須屋明子（京都市立芸術大学教授）

■ カタログ

本展ではカタログを発行予定です。発売時期や価格が決定しましたら、公式サイトでお知らせいたします。カタログご希望の方は、京都市立芸術大学ギャラリー @KCUA までお問い合わせください。

■ 展覧会イベント

■ タデウシュ・カントル関連映像上映会

『死の教室』

1976 年 / 75 分 / アンジェイ・ワイダ撮影 / TVP / 字幕翻訳 関口時正
日時: 10/10 (土) 13:00 ~
会場: 京都芸術センター 講堂

クリコタージュ 『こそこの雪は今いずこ』

1984 年 / 33 分 / アンジェイ・サビヤ撮影 / WFO
日時: 10/23 (金) 15:00 ~ / 17:20 ~
会場: 京都市立芸術大学ギャラリー @KCUA

「ヴィエロポーレ、ヴィエロポーレ」

1983 年 / 86 分 / スタニスワフ・ザヨンチュコフスキ撮影 / TVP / 字幕翻訳 津田晃岐
日時: 10/23 (金) 15:40 ~ / 18:00 ~
会場: 京都市立芸術大学ギャラリー @KCUA

「くたばれ! 芸術家」

1986 年 / 77 分 / スタニスワフ・ザヨンチュコフスキ撮影 / TVP
日時: 10/25 (日) 13:00 ~ / 16:00 ~
会場: 京都市立芸術大学ギャラリー @KCUA

「私は二度とここには戻らない」

1990 年 / 81 分 / アンジェイ・サビヤ撮影 / TVP / 字幕翻訳 津田晃岐
日時: 10/25 (日) 14:30 ~ / 17:30 ~
会場: 京都市立芸術大学ギャラリー @KCUA

「今日は私の誕生日」

1991 年 / 77 分 / スタニスワフ・ザヨンチュコフスキ撮影 / OTV
日時: 11/3 (火・祝) 13:00 ~ / 16:00 ~
会場: 京都市立芸術大学ギャラリー @KCUA

「カントル」

1985 年 / 75 分 / アンジェイ・サビヤ撮影 / TVP / WFO
字幕翻訳 加須屋明子
日時: 11/3 (火・祝) 14:30 ~ / 17:30 ~
会場: 京都市立芸術大学ギャラリー @KCUA

■ 関連作家上映会

「オー! マイキー スペシャル・エディション 上映&トーク」

日時: 10/12 (月・祝) 19:00 ~ 20:30
会場: 京都芸術センター 大広間
スピーカー: 石橋義正 (監督)、
橋本裕介 (KYOTO EXPERIMENT プログラムディレクター)
主催: 京都市立芸術大学 共催: 京都芸術センター

松井智恵映像上映会&トーク

A プログラム (計約 65 分)
"Heidi 45"2005, "Heidi 46 - brick house"2006, "Heidi 46 - hair"2006, "Heidi 47 - being"2007
B プログラム (計約 65 分)
"Heidi 49 - river"2009, "Heidi 53 - echo"2013, "Heidi 54 - Purucha"2014
日時: 10/24 (土)
A: 11:30 ~ / 13:50 ~ / 16:10 ~
B: 12:40 ~ / 15:00 ~ / 17:20 ~
トーク 17:30 ~
会場: 京都市立芸術大学ギャラリー @KCUA

■ シンポジウム

Part1 「カントルの受容とその今日的継承」

スピーカー: アンナ・ブジンスカ (現代演劇論)、レフ・スタングレット (美術史家、
タデウシュ・カントル財団代表、クリコ2俳優)、バルバラ・スタングレット (タデ
ウシュ・カントル財団、クリコ2俳優)、ヨアンナ・ライコフスカ (本展出品作家)、
加須屋明子 (京都市立芸術大学教授、本展企画)
日時: 10/10 (土) 14:30 ~ 18:00
会場: 京都芸術センター 講堂
主催: 京都市立芸術大学 / 共催: ポーランド広報文化センター、Culture.pl、京都芸
術センター / 協力: クリコテカ、タデウシュ・カントル財団、ポーランド外務省
/ 後援: ポーランド共和国大使館、日本ポーランド協会関西センター、NPO 法人
フォーラム・ポーランド組織委員会

Part2 「カントルと各文化圏における文学・演劇」

スピーカー: 井上暁子 (熊本大学准教授 / ドイツ・ポーランド国境地帯の文学、移
民文学研究)、加藤有子 (名古屋外国語大学准教授 / ポーランド文学、表象文化論
研究)、伊藤倫 (日本学術振興会 / ロシア演劇史研究)、福田桃子 (日本学術振興会
/ フランス小説、演劇研究)、丹羽良徳 (本展出品作家)、加須屋明子 (京都市立芸
術大学教授、本展企画)
日時: 11/14 (土) 14:00 ~ 17:40
会場: 京都市立芸術大学ギャラリー @KCUA
主催: 京都市立芸術大学 / 共催: ポーランド広報文化センター、Culture.pl、日本ス
ラヴ学研究会 / 協力: クリコテカ、タデウシュ・カントル財団 / 後援: ポーランド
共和国大使館、日本ポーランド協会関西センター、NPO 法人フォーラム・ポーラ
ンド組織委員会

■ オープニング、パフォーマンス、舞台公演

ギャラリートーク / オル太パフォーマンス 「目覚め (GHOST OF MODERN)」 /
オープニングレセプション

日時: 10/11 (日) 16:00 ~ (17:00 ~ パフォーマンス)
会場: 京都市立芸術大学ギャラリー @KCUA
18:00 ~ アーティストを囲むでのオープニングレセプションを行います。

石橋義正 新作舞台公演『ZERO ZONE 人工知能は陸橋で積み木をつむデスカ』

日時: 10/17 (土) 19:00 ~、10/18 (日) 14:00 ~、17:00 ~
(開場は開演の 30 分前、受付は開演の 45 分前より。 / 未就学児不可)
上演時間: 1 時間
会場: 京都芸術センター 講堂
料金: 3,000 円 (一般) / 2,500 円 (25 歳以下)
構成・演出: 石橋義正
出演: 寺 美波 (俳優)、素我螺部・藤井 b 泉 (ダンサー)、
素我螺部・宮原由紀夫 (ダンサー)、皆川まゆむ (ダンサー)、
山中雅博 (テノール)、天根静也 (僧侶)
主催: 京都市立芸術大学、有限会社石橋プロダクション
共催: 京都芸術センター
企画・制作: 京都市立芸術大学ギャラリー @KCUA、石橋プロダクション

チケット取り扱い【発売中】

●カンフェティ (<http://www.confetti-web.com/detail.php?tid=307048>)
●京都市立芸術大学ギャラリー @KCUA
●京都芸術センター (窓口のみ、10:00 ~ 20:00)、

【注意】

※石橋義正 新作舞台公演を除き、イベントは料金無料、予約不要
※諸般の事情のため変更をする場合がございます。
詳しくはお問い合わせください。

■ 展示会場構成

本展の展示会場構成は建築家の松島潤平が手がけます。

松島潤平（松島潤平建築設計事務所主宰）

公式サイト：<http://www.jparchitects.jp/>

1979 年長野県生まれ、2005 年東京工業大学大学院 建築学専攻 修士課程修了。隈研吾建築都市設計事務所 勤務を経て 2011 年に松島潤平建築設計事務所設立。現在、東京工業大学大学院 建築学専攻 博士課程在籍中。

2012- 稲葉大明、軍司匡寛、森下征治 とともに、USTREAM マンガ談義チャンネル『MANDAN』を主宰、配信。

2010- TEAM ROUNDOABOUT で現代アート専門メディア：『ARTit』と協同し、web マガジン『ART and ARCHITECTURE REVIEW』創刊。同サイト内のオフィシャル・ブログ『lithium_blog』を連載。

2008- 日本建築学会機関誌『建築雑誌』内のコーナー『建築マンガ』を、様々な若手マンガ家の作画協力者として連載。（2009 年 12 月号完結）
藤井亮介との対談サイト：『FM 24.7』を開設。随時更新中。

2007- TEAM ROUNDOABOUT のメンバーとして、建築界のフリーペーパー：『ROUND ABOUT JOURNAL』を定期的に発行。

■ 開催概要

展覧会名称：タデウシュ・カントル生誕 100 周年記念展「死の劇場ーカントルへのオマージュ」

主催：京都市立芸術大学

共催：ポーランド広報文化センター、Culture.pl

協力：クリコテカ、タデウシュ・カントル財団、フォクサル画廊、シアター X（カイ）、MEM、有限会社石橋プロダクション、
フォクサル・ギャラリー財団、京都芸術センター、KYOTO EXPERIMENT、テラヤマ・ワールド、
＜地球との対話＞プロジェクト 21、多摩美術大学

後援：駐日ポーランド共和国大使館、日本ポーランド協会関西センター /NPO 法人フォーラム・ポーランド組織委員会

助成：平成 27 年度文化庁「優れた現代美術の海外発信促進事業」、公益財団法人ポーラ美術振興財団、
公益財団法人アサヒグループ芸術文化財団、公益財団法人花王芸術・科学財団、公益財団法人朝日新聞文化財団

会場：京都市立芸術大学ギャラリー@ KCUA（住所／京都市中京区押小路町 238-1）

一部イベントは京都芸術センターにて開催

会期：2015 年 10 月 10 日（土）- 11 月 15 日（日）

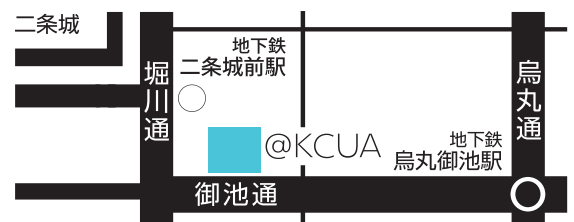
11:00 ～ 19:00（最終入場 18:30 まで）

月曜休館（月曜日が祝日の場合は翌日休）

入場：無料 ※但し有料の舞台公演は除く

お問い合わせ：京都市立芸術大学ギャラリー@ KCUA

Tel：075-253-1509 E-mail: galler@kcuu.ac.jp 公式サイト：<http://gallery.kcuu.ac.jp>



京都市立芸術大学

Kyoto City University of Arts — founded in 1880 —

@KCUA

KYOTO CITY UNIVERSITY OF ARTS ART GALLERY



公益財団法人 花王 芸術・科学財団

■ プレス向け画像貸出について

本プレスリリースに掲載している画像はメディア掲載時にご利用いただけます。

ご希望の方は広報担当（西谷）までお問い合わせください。

【プレスリリース お問い合わせ】

広報担当 | 西谷枝里子（リレーリレー）

Tel. 090-2062-6963 Fax. 075-253-1510 E-mail: eriko@relayrelay.net